ジェーン・エア（1943）

JANE EYRE

メディア 映画
ジャンル ドラマ　文芸
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 96分
初公開日 1947/10/07
公開情報 セントラル

【解説】

血の繋がりのない伯母のもとで惨めな日々を送る十歳の孤児ジェーン・エア（ガーナー）。利発さは狡猾さにとられ、才智は生意気と映り、彼女を疎んじた伯母は、孤児の学校へ入れてしまう。その学校でも、教育の何たるかを勘違いしている理事長の所為で陰鬱な毎日を耐えなければならないジェーン。心の支えのたった一人の友の幼い命も儚く潰える。砂を噛むような生活に耐え、長じて教師の資格を取ったジェーン（フォンテイン）は、逃げるように外に職を求め、ロチェスター家の家庭教師となる。邸の主人は長期に渡って不在であったが、ある夜、邸のそばを散歩していたジェーンは、突然、馬と鉢合わせする。乗っていたその男こそ、主人のロチェスター（ウェルズ）。運命の出逢いであった。薄幸の女性の半生を綴った英文学の名作、シャーロット・ブロンテの『ジェーン・エア』の三度目の映画化。かなりの長編の大時代的な原作だが、エピソードを過不足なくまとめあげている（ただし、セント・ジョン等、特に後半の幾人かの登場人物はそっくり削られている）。出来れば、“声”のエピソードはもっときちんとした形で欲しかった気がするが。無骨で、決して美男とは言いかねる容貌の、しかし心に傷を持ち根は優しい、といった（例えば、背の高い西田敏行のような）キャラクターのロチェスターは、ウェルズのために書かれたような役柄。巧みに演じている。対するフォンテインはジェーンにしては美しすぎるかもしれないが、それは映画の常である。子役時代のエリザベス・テイラーが、ジェーンの親友ヘレン役で出演している。

【クレジット】

監督	ロバート・スティーヴンソン	Robert Stevenson	
製作	ウィリアム・ゲッツ	William Goetz	
原作	シャーロット・ブロンテ	Charlotte Brontë	
脚本	ロバート・スティーヴンソン	Robert Stevenson	
	オルダス・ハクスレイ	Aldous Huxley	
	ジョン・ハウスマン	John Houseman	
撮影	ジョージ・バーンズ	George Barnes	
編集	ウォルター・トンプソン	Walter Thompson	
音楽	バーナード・ハーマン	Bernard Herrmann	
出演	オーソン・ウェルズ	Orson Welles	エドワード・ロチェスター
	ジョーン・フォンテイン	Joan Fontaine	ジェーン・エア
	マーガレット・オブライエン	Margaret O'Brien	アデール
	ペギー・アン・ガーナー	Peggy Ann Garner	ジェーン・エア（少女）
	エリザベス・テイラー	Elizabeth Taylor	ヘレン
	メエ・マーシュ	Mae Marsh	リア
	アグネス・ムーアヘッド	Agnes Moorehead	リード夫人

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.

オーブリー・メイザー	Aubrey Mather	デント大佐
ジョン・サットン	John Sutton	リヴァース医師
サラ・オールグッド	Sara Allgood	ベッシー
ヘンリー・ダニエル	Henry Daniell	ヘンリー・ブロックルハースト
エディス・バレット	Edith Barrett	フェアファックス
バーバラ・エヴェレスト	Barbara Everest	レディ・イングラハム
ヒラリー・ブルック	Hillary Brooke	ブランチ・イングラハム

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.